

## 自己評価の基準と視点

### 【自己評価の基準】

#### ■自己評価（個別目標の達成に向けた事業の進捗状況、達成度）

前年度末と比較した状況を5段階から選択し、その理由を簡潔に記入しています。

1. 未実施 [実施していない(目標達成による終了を除く)]
2. 悪化 [前年度末と比較して状況が悪化]
3. 横ばい [前年度と同様の内容で継続]
4. 改善 [新規事業の開始、規模拡大、内容の改善]
5. 目標達成[個別目標の達成、目標を達成したことを理由とする事業完了]

### 【評価視点の基準】

#### ■評価視点(事業内容及び実施結果に対する評価の補足、第三者評価の視点)

次の4つの視点からみた事業の状況を5段階から選択し、その理由を簡潔に記入しています。  
自己評価が「達成度」であるのに対し、評価視点は事業の適性を示したものです。

1. 低い [該当する項目がない。改善するべきだが未実施](★1)
2. やや低い[該当する項目があるが成果に繋がっていない](★2)
3. 普通 [該当する項目があり、また、成果がある](★3)
4. やや高い[複数に該当している、または、特定の項目で大きな成果がある](★4)
5. 高い [複数に該当している、また、複数の項目で大きな成果がある](★5)

##### ①有効性(個別目標の推進に貢献しているか)

- ・結果、成果を示す項目の実績値が順調に推移しているか。
- ・定期的に見直しを行っており、実績値も改善されているか。
- ・他事業と統合することで、より効果を高めているか。
- ・民間団体、市町村等と協働、連携し、より効果を高めているか。

##### ②効率性(事業に投入したコストに見合う活動ができたか、コスト削減に努めたか)

- ・効果が最大となるための方法をとっているか。
- ・民間委託等、より少ない経費で同等の効果を上げているか。
- ・特定財源を活用している。既収収入の増や新たな収入を確保に努めているか。
- ・民間団体、市町村等と協働、連携しているか。

##### ③必要性(事業は個別目標の達成に必要不可欠か)

- ・行政(県)の責任分野を超えた、必要以上にサービスの提供ではないか。
- ・県民、団体等の自主性、主体性を尊重しているか。
- ・国、市町村、NPO、企業等と役割を分担している。または協働、連携しているか。
- ・NPO、ボランティアの活動領域と重なっていないか。
- ・社会経済情勢に合わせて事業の見直しを行っているか。

##### ④独自性(文化的・芸術的な視点があるか、指針独自の方向性と合致しているか)

- ・文化的、芸術的、独創的な魅力を高める工夫をしているか。
- ・県民の自主性、創造性を促しているか。
- ・情報発信を積極的に行い、目的や対象に合致するデザインや媒体で行っているか。
- ・本県特有の文化の価値を高めることに繋がっているか。
- ・文化の継承及び発展、文化活動を支える者や団体の育成に繋がっているか。

### <参考>今後の方向性の区分

#### ■今後の方向性（個別目標の達成に向けた事業の今後の方向性）

1. 廃止、休止、終了[事業の廃止、休止、終了、期間の満了]
2. 一部廃止、縮小、統合[一定の業務の廃止・休止、事業費の削減、他事業との統合]
3. 拡充 [事業の拡大、事業費の増大が必要]
4. 継続 [今年度と同様の内容で継続実施が必要]